

## 第3号 育苗・本田準備編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

- ◎天候は回復する見込みです。ハウス・トンネル内の高温に注意しましょう。
- ◎適期にベタ張りを除去し、苗の軟弱徒長を防止しましょう。



### 1 育苗期の温度管理

播種後は曇天で経過していることから、地温が温まらず、出芽に日数を要しているケースも見られます。今は被覆資材内への安易なかん水はせず、地温を温める管理で出芽を促しましょう。

4月17日仙台区気象台発表の山形県の季節予報では、向こう1か月(4/19~5/18)の気温の高い確率は60%となっています。晴天時のハウス・トンネル内はかなりの高温になります。必ず温度計を設置して、苗の生育適温となるようハウスサイドやトンネルの裾はしっかり開放しましょう。

遮光資材は有効に使い、苗の徒長や根張り不良を避けるため、遮光資材の掛けっぱなしはやめましょう。

表-1 苗生育段階ごとの管理

生育段階	所要日数	昼間	夜間	管理の目的・ポイント
出芽期 (ハウス ~0.8葉) (トンネル ~1.0葉)	無加温 6日程度 加温 2日程度	30~32°C		左記葉数になったら速やかに被覆資材を剥ぐ。無加温では、出芽を揃えるために保温資材で部分的に被覆するなど、こまめな温度管理を行う。
緑化期 ~1.0葉	3日程度	25°C	15°C	遮光資材等を用い、弱い光で苗を徐々に緑色にする。
硬化期 1.5葉~	移植前日まで	20~25°C	8°C以上	苗を外気に慣らす。低温時以外は被覆資材を用いない。田植え1週間前頃からは夜間もハウスやトンネルを開放し、更に外気に慣らす。

○かん水は朝のうちにたっぷりと。夕方以降のかん水は床土温度を下げてしまい、ムレ苗等の原因となります。

○追肥は、稚苗育苗で1.8葉期に、中苗育苗で2葉期と3葉期に1箱当たり窒素成分で1g施用します。

### 2 プール育苗のポイント

1. 5葉期になったら入水します。入水以降は下記表-2のように管理します。

肥料(例)	N%	現物量/箱
液肥2号	10	10g
硫安	21	5g

表-2 プール育苗を行う際の水管理と温度管理

生育ステージ	水管理	温度管理
1.5~2葉期	1回目入水。水位は苗箱が水没しないように床土がかくれる程度の高さまで。ただし、低温・降霜注意報が出されたら、箱の上まで湛水して保温する。	夜間5°C以上なら 昼夜とも ハウス開放 低温降霜時は閉める
2葉期以降	常時湛水。水深は箱の上1cm程度にする。ただし、最大でも苗丈の半分以下の水深にする。	
田植え前日	運搬しやすくするため、前日の夕方には排水する。	

○追肥を行う場合は、入水前1.5葉期に全面散布(翌日以降湛水)、もしくは入水後1.8葉期に前日から落水して全面散布します。

○プール育苗では水の保温効果で苗が伸び易いため、ハウス内の温度は慣行育苗より低めに管理します。

### 3 育苗中の病気に注意

## 異変は早期発見、早めの相談！

過度な高温・低温・過湿等は、病原菌の発生を助長します。適切な温度管理と水管理に努めましょう。

表-3 苗の病害についての病原別の特徴 ●:高温で発生しやすい。▲:低温で発生しやすい。

病原菌	主な症状	発生条件	注意点と防除例
フザリウム ▲	地際部に白色のカビ。籾中心に白～淡紅色のカビ。	床土の過湿。緑化期の低温(10℃以下)。	低温、過湿を避ける。タチガレン液剤の土壌灌注(播種時及び発芽後)。
ピシウム ▲	カビは見られない。出芽後すぐに芽・根の急激な萎凋枯死。2～3葉期に「ムレ苗」の発生。	緑化以降の低温(10℃以下)。	
リゾプス ●	はじめ籾周辺、やがて全体に白いカビ。根の伸長停止、葉の黄化。	極端な厚播き。出芽時の高温、多湿。緑化以降の低温。	32℃以上の高温にしない。多湿にしない。ダコニール1000の土壌灌注(播種時～緑化期)。
トリコデルマ ▲	青緑色のカビの塊(孢子塊)が発生。葉の黄化激しい。	低pH、緑化開始時の低温	ダコレート水和剤の灌注(播種時～緑化期)。
ムレ苗 ▲	2葉期以降に発生しやすい。カビは見られない。日中は葉が針状に巻き、朝夕は回復するが、やがて枯死する。坪状に発生。	被覆過剰。灌水過多。育苗後期の日照不足、低温。	温度・水分・日照のストレスを与えない。
苗立枯細菌病 ● もみ枯細菌病 ●	第2葉の葉身基部が黄白化し枯死。坪状に発生。	高温、多湿。	高温、多湿を避ける。発生した場合は苗を処分。

※ 農薬を使用する場合は、必ず使用方法・時期等を確認しましょう。

### 4 基肥は品種・地力に応じて適量を

○収量確保、高品質・良食味米生産のために、品種・地力に応じて過不足なく施用しましょう。特に「つや姫」

「雪若丸」は玄米粗タンパク質含有率が乾物換算 7.5%以下となるよう、適量を施用しましょう。

○基肥は、耕起後に施用することで肥料成分が作土層の上部に分布し、稲に効率よく吸収されます。

表-4 品種別の施肥基準量(Nkg/10a)

品種			はえぬき	つや姫	雪若丸	ひとめぼれ	コシヒカリ	
体系施肥	基肥N ※1	地力 高	4.0～5.0	3.0	4.0	4.0	1.5～2.0	
		地力 中	5.0～6.0	4.0	5.0	4.5～5.0		
		地力 低		4.0(～5.0※3)	5.0(～6.0※3)		3.0	
追肥N ※2			2.0	1.5	2.0	1.5+1.0	1.5	
全量基肥施肥			地力 高	6.0～7.0	4.5	6.0	6.5	3.0～3.5
			地力 中	7.0～8.0	5.5	7.0	7.0～7.5	
			地力 低		5.5(～6.5)	7.0(～8.0)		4.5

※1 堆肥施用の場合は1kg程度減肥。 ※2 生育過剰の場合は減肥。 ※3 1.0上限に増量。

### 5 耕起作業では適正な作土深の確保を

作土の深さは水稻の品質・収量に大きく影響します。15cm 以上の作土深を確保しましょう。また、乾土効果(作土が乾燥することで土壌中の有機態窒素が無機化される)を高め、初期生育確保につなげましょう。

**「スマートつや姫」を作付前から使ってみよう！**

「食味・収量点検マップ」を確認し  
改善項目を振り返ろう！



専用 HP へ  
アクセス

お問合せは農業技術普及課またはお近くの JA 営農指導員へ

**決して耕起作業は焦らずに！**

**春季農作業事故防止運動**

**4/1～6/10**

**農機の始動前点検**

**トラクターの転倒・転落防止**